

令和7年度 第3回飛騨市総合政策審議会

日時：令和7年12月22日（月）午後1時～
場所：市役所西庁舎3階 小中会議室

1. 開 会
2. 市長挨拶
3. 会長挨拶
4. 協議・報告事項
 - (1) 令和8年度当初予算編成（案）について …… 資料①
 - (2) 物価高騰対策（案）について …… 資料②
 - (3) クマの現状と市の対策について …… 資料③

～ 休 憩 ～

 - (4) 自由討議 ……
5. そ の 他
 - 今後のスケジュール …… 資料④
6. 閉 会

岐阜県飛騨市 令和8年度 当初予算(案)



*第3回総合政策審議会用の検討段階の資料であり、
予算を確約するものではありません。
資料の取り扱いには十分ご注意ください。

令和7年12月22日時点

令和8年度予算：原点回帰の編成

『身近な暮らしの課題への回帰』

～持続可能な飛騨市づくりの堅持～

背景：予算環境の変化

- 物価・人件費の高騰が常態化し、事業コストが上昇
- 地方交付税・ふるさと納税等の見通しが立ちにくく、財政運営が不安定化
- 従来型の予算編成・市政運営では持続性を確保できない局面へ
- 限られた財源・人材の中で、「真に必要な事業」を見極める必要

基本姿勢：なぜやるかを徹底

- 「何をやるか」よりも「なぜ必要か／何のためか」を重視
- 暮らしの課題を洗い出し、課題の本質を整理(現場感を重視)
- 優先順位を明確化し、最少の経費で最大の効果を狙う
- 単年度対応に留めず、将来の飛騨市を見据えて検討



元気な 飛騨市づくり — しごとを守る —



あんきな 飛騨市づくり — まちをつくる —



誇りの持てる 飛騨市づくり — 風土・ひとを伸ばす —



市役所づくり — 強靱な市役所をつくる —

予算編成の道のり(政策協議)

政策協議:約70時間

「削る査定」ではなく、「選び直す編成」へ

① 一般財源に上限設定
前年同額を上限に、各課が優先順位を付けて再配分

② 全事業を再整理
暮らしの課題リスト化/対応状況点検(議会・市民意見も反映)

③ 知恵と工夫を徹底議論
0予算・外部財源・協働・手法転換で質を落とさず効果最大化

工夫の具体例(発想・手法の転換)

低予算でも 効果を生む

企業や地域との連携、手法や運用の見直し、思いやりのある制度設計へ

目的の転換

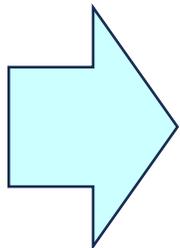
省エネ支援:雇用要件等を見直し、GX(省エネ推進)として実態に合う制度へ

重点の見直し

防犯灯:LED化後の維持・修繕負担を課題として捉え、支援の重点を再設定

発想の転換

外来魚:駆除一辺倒から「食」等の活用実証へ—地域資源化の可能性を検討



市民等の暮らしの課題を起点に、
限られた財源の中でも知恵と工夫を重ね、
「やるべきこと」を磨き上げた予算として編成

あんき

誰一人取り残さないまちをつくる

弱い立場にある方々への支援をはじめ、市民主体の平和の取り組みなどを通じ、みんながみんなにやさしく寄り添えるまちづくりを進めます。



新規★ がん等に関する 相談体制整備と職場理解の促進

がん等により生活や就労に不安を抱える方に対し、相談体制を整備するとともに、経済連合会でのセミナー等を通じた企業向けの啓発を行い、治療と仕事の両立を後押しします。 ○万円



「飛騨市D型就労継続 支援サービス」の検証 ○万円

就労継続支援B型の高齢化課題に対応するため、作業能力の低下があっても生活リズムと社会参加を維持できる市独自の新たな支援サービス「D型」を検証します。

新規★ 社会的孤立者の一歩を 支える挑戦への支援 ○万円

ひきこもり等で就労が難しい方に対し、資格取得やカルチャー講座への助成を通じて、外に出る契機と次の行動につながる一歩を後押しします。

新規★ 「個別避難計画策定防災士」連携

防災士会の協力を得て、個別避難計画の作成を担う認定防災士の仕組みを構築し、研修や説明会を通じ て地域で支え合う避難体制づくりを進めます。 ○万円

拡充▶ 市民提案型の 平和への取り組みの実践 ○万円

市民主体で策定した飛騨市平和都市宣言の実現に向け、平和推進委員会からの提案をもとに、市民主体の平和の取り組みを実践します。

拡充▶ 「セルフメンテナンス」の体制整備

個々の悩みや生きづらさを抱えながらも、悩みそのものではなく心と体の健康にフォーカスすることで、自分で持続的にセルフメンテナンスができる相談体制を整備します。 ○万円

拡充▶ 性や妊娠等の 正しい知識の普及促進 ○万円

妊娠出産に限らず、生涯に渡る性と健康づくりについて、市民や市内企業と双方向の対話を通じて、正しい知識の普及と啓発(プレコンセプションケア)を進めます。

継続☑ 子ども一人一人に寄り添った 不登校支援の実施 ○万円

不登校の要因や状態は一人ひとり異なるため、学校と市民福祉部が連携し情報を共有しながら、その子にとって今何が足りないかを見極め、必要な支援を適切につないでいきます。

あんき

安心安全な暮らしを持続させる

住環境や防災体制の充実、健康づくりの推進などを通じ、これからも市民が安心して暮らし続けられるまちづくりを進めます。



拡充

有害鳥獣対策の強化

〇万円

クマの出没増加や人身被害を踏まえ、緊急銃猟体制の強化やハンター育成、地域ぐるみの放任果樹伐採を支援し、被害の未然防止を図ります。



拡充

「食」を軸とした健康キャンペーンの実施

〇万円

血糖値や肝機能の改善が課題となる現状を踏まえ、栄養バランスなどを可視化できる食育SATシステムを活用し、子供から大人まで行動変容を促す健康キャンペーンを展開します。

拡充

「自主防災組織連絡協議会」による地域防災力向上

〇万円

自主防災組織連絡協議会を発足し、研修や実務支援を通じて、防災士と行政区等が連携した実効性ある地域防災体制の構築を進めます。

拡充

エアコン購入助成による高齢者熱中症対策

〇万円

既存の買替支援に加え、熱中症による救急搬送の多くを占める高齢者を守るため、65歳以上の非課税世帯を対象に、エアコンの新規購入を新たに支援します。

拡充

古川町大横丁線無電柱化工事の実施

〇万円

壱之町線に続き、古川町大横丁線において無電柱化工事に着手し、景観の向上と安全で快適な道路空間の確保を進めます。

拡充

防犯灯の維持・改修支援の拡充

〇万円

行政区等が管理する防犯灯の電気代高騰や老朽化に対応するため、維持補助の増額に加え、LED交換や支柱修繕、災害時修理まで対象を広げ、行政区等による防犯灯管理を支援します。

新規

物価高騰対策による水道基本料金の減免(再掲)

〇万円

国の重点支援地方交付金を活用し、水道基本料金を一定期間減免することで、市民生活の負担軽減を図ります。



特定空家の解体促進対策の検討

〇万円

解体が進まない特定空家の解体を促進するための対策として、貸付金制度など多角的に検討します。

子どもや子育て世代を中心に、成長の節目や日々の暮らしに寄り添いながら、安心して子どもを育て、過ごせる環境づくりを進めます。



新規★ 公私連携型保育所型認定こども園「神岡こども園」の開所

〇万円

これまで準備を進めてきた「神岡こども園」を令和8年4月に開園し、神岡地区の新たな保育の運用を開始します。

新規★ 長期休暇中等の 子どもの居場所づくり

〇万円

ハートピア古川を活用し、長期休暇中などに子どもが安心して過ごせる場所を整備し、学習や交流の場を提供します。

拡充➡ 子供たちの提案による 旭保育園利活用の実施設計

〇万円

神岡小学校6年生の提案を踏まえ、子育て支援センター移転を見据えた旭保育園園舎の利活用方針と改修内容を整理し、実施設計を行います。

拡充➡ 通院対象範囲拡大による妊婦支援

〇万円

従来の助成に加え、突発的に発生する飛騨圏域外への遠方通院も対象とすることで、妊婦の通院に伴う経済的負担を軽減します。

拡充➡ 子育て世代に人気の 都市公園水遊びイベントの充実

〇万円

利用者アンケートを踏まえ、都市公園で実施する水遊びイベントに乳幼児・幼児用プールを整備し、年齢の異なる子どもが安全に楽しめる環境を整備します。

拡充➡ 多胎妊娠支援拡充による 産前産後サポート強化

〇万円



多胎妊婦に対し妊婦健診受診券を追加配布するとともに、ピアサポーターの養成を進め、産前産後の切れ目ない支援体制を強化します。

拡充➡ 入学祝い金の現金化と活用支援

〇万円

県の高校生タブレット助成廃止も踏まえ、入学祝い金を現金で支給し、学用品や端末購入など市が示す推奨メニューへの活用を促し、入学期の負担軽減につなげます。

拡充➡ 物価高騰対策による 子育て世帯支援 (再掲)

〇万円

国の重点支援地方交付金を活用し、電子クーポンを追加支給するとともに、給食費の食材高騰分を支援し、給食の質を確保します。

元気

外貨獲得の仕組みをつくる

販路や誘客の拡大を図るため、市内の高い価値を持つ食材や特産品、観光資源を活用した取組みを行います。



拡充 ▶ 日本一の鮎を味わう機会づくり

高原川の鮎が全国利き鮎会で日本一となったことを生かし、**〇万円**
鮎の食べ比べイベント開催や、市内で鮎が味わえる店舗を紹介する「鮎マップ」を作成します。

拡充 ▶ 「まるごと食堂」による 市産食材の魅力発信

飲食店と生産者が連携した期間限定メニューフェア「まるごと食堂」を市内開催に加え、新たに岐阜市でも開催するとともに、和食麵処サガミと連携した「東海版まるごと食堂」を継続開催します。**〇万円**

拡充 ▶ 町並みガイドブックを 活用したイベントの開催

町並みガイドブック「飛騨古川タウントレイル3」を活用し、**〇万円**
大学等と連携した勉強会や街歩きイベントを通じて、町並みの魅力発信と誘客を強化します。

拡充 ▶ 瀬戸川・まつり広場の夜間照明整備

市民ワークショップで整理した重点箇所をもとに、**〇万円**
瀬戸川・まつり広場の夜間照明を整備し、滞在価値の高い町並みづくりを進めます。

新規 ▶ 「国際ヒダスケ」制度の創設

〇万円
新港郷から地域おこし協力隊員を受け入れ、外国人向け体験プログラムの実証を通じて、国際関係人口の創出など新たな誘客につなげます。

拡充 ▶ 関係人口と連携した 自然環境の保全整備

〇万円
登山愛好家などの関係人口と連携し、登山道や湿原の保全整備を進めます。ふるさと納税を活用した財源確保の仕組みを構築し、持続的な整備につなげます。

拡充 ▶ まつり広場の舗装改修整備

〇万円
古川祭の屋台保護と景観向上を目的に、まつり広場の舗装改修工事に着手し、ユネスコ無形文化遺産を後世へ継承するための環境整備を進めます。

拡充 ▶ 専門家活用による道の駅誘客強化

〇万円
道の駅アルプ飛騨古川、宙ドーム神岡それぞれの立地特性に応じ、専門家の助言を受けた誘客対策を進めます。また、PRや人材育成への支援を拡充し、集客力向上を図ります。

元気

持続可能な産業基盤をつくる

人口減少の中で市内産業等の持続化や各分野における更なる発展を図るため、新たな仕組みの導入や少人数でも維持できる体制の検証を行います。



新規★ 集落支援員による 万波そば生産支援

〇万円

高齢化で存続が危ぶまれる万波そば生産組合を支えるため、集落支援員を活用し、農作業受託や農地管理を通じて特産品の生産体制の持続を図ります。

新規★ 就労・移住のための休日相談窓口開設

〇万円

UIターン就職や移住希望者が相談しやすい環境を整えるため、予約制による就労・移住の休日相談窓口を新たに開設します。

拡充➡ Uターン就職を後押しする 育英基金拡充

〇万円

育英基金制度を見直し、地元へUターン就職した方を新たに減免対象とし、若者の地元定着を促進します。

拡充➡ 地域交通を支える タクシー事業者への支援

〇万円

経営環境が厳しさを増すタクシー事業者の経営を支えるため、車両の更新や改修、運行環境の整備に対する直接的な支援を行い、地域交通の維持を図ります。

新規★ UIターンに特化した 休日企業説明会の開催

〇万円

中途採用やUIターン希望者へのマッチングの場を広げるため、帰省時期に合わせて市独自の休日合同企業説明会を開催します。

拡充➡ 介護サービス提供体制確保 のための送迎支援

〇万円

送迎人員不足で利用が難しい介護サービスへの対応として、移動費助成を拡充することで、サービス提供体制の確保を図ります。

新規★ 経済変動対策資金への利子補給

〇万円

景気変動や金利上昇の影響を受ける中小企業を支えるため、県融資制度「経済変動対策資金」を利用した事業者への利子補給制度を新設します。

負担軽減につながる 除草手法の実証

〇万円

公園をフィールドに、自然由来の液剤による除草の実証や先駆的な草刈り機械の実証を行い、将来の維持管理負担を軽減する手法を試行します。

元気

未来へ繋ぐ農林畜産業をつくる

農林畜産業の持続化を図るため、人材の確保・育成、担い手農家や営農組織への支援を行うとともに、豊富な森林資源の保全・活用を推進します。



拡充 森林づくり構想の 実現に向けた市有林整備

〇万円

飛騨市森林づくり構想に基づき、市有林で針広混交林化や無花粉スギ導入などを進め、将来にわたり持続可能な森林づくりを進めます。

新規 子牛事故に備える 繁殖農家支援

〇万円

子牛生産時の事故等による経営への影響を軽減するため、農業共済で補償されない症例について、和牛改良組合を通じて支援します。

実証 農作業の労力を少しでも減らす 省人化の実証

ゼロ予算

人口減少を見据え、水田直播の拡充(たかやまもち、WCS用稲)、簡易的な草刈り方法など、将来の持続可能な農地管理の在り方を検討します。

実証 多様な担い手農家の 営農継続支援の在り方検討

〇万円

兼業農家や高齢農家、多様な担い手が無理なく営農を続けられるよう、使われなくなった農機具の有効活用や、雇用就農につなぐ人材確保の仕組みづくりを検討します。

実証 作物に応じた人材確保モデルの構築

〇万円

作物ごとに異なる経営実態を踏まえ、トマト・ほうれん草・水稻で就農の形を整理し、研修型、雇用型等を組み合わせた人材確保モデルを構築します。

実証 農業サービス事業体の認定と 農作業の省力化支援

〇万円

少人数でも地域農業を守るため、大規模農家を農作業サービス事業体として認定し、自動水栓設置やドローン防除などの省力化技術を導入しながら、農業者連携による効率的営農を検証します。

実証 異常気象に負けない 作物安定生産技術の確立

ゼロ予算

異常高温による水稻・野菜への影響に対応するため、関係機関や農家と連携し、作業管理の最適化や耐暑品種、水管理、資材活用等の実証を行い、安定生産技術の確立を目指します。

実証 サガミ連携を見据えた エゴマ供給体制の強化

〇万円

和食麺処サガミでのメニュー化・商品提供を見据え、エゴマの安定生産と供給体制を整え、生産者の所得向上と特産品の持続化を図ります。

誇り

誇れる地域資源・文化・教育をつくる

未来に誇れる地域資源・文化、教育をつくるため、楽しく学び、安心して過ごせる教育環境と、地域資源を活用したまちづくり活動を整備します。



実証 厄介者の外来魚を 活用した「食」の検証

〇万円

厄介者とされる外来魚ブラウントラウトを地域資源と捉え、レシピ開発や試食会を通じて「食」の可能性を実証します。

新規★ 地域クラブ活動を支える サポーター制度の創設

ゼロ予算

企業等からの寄付で地域クラブ活動を支援する「地域クラブ応援サポーター制度」を創設し、指導者確保や運営基盤の強化を図ります。

新規★ 古川祭史の刊行と 記念シンポジウムの開催

〇万円

長年の調査と資料収集を基に古川祭の歴史を体系的にまとめ、祭史の刊行と記念シンポジウムを通じて次世代への継承を図ります。

拡充 神岡小学校プールの一般開放

〇万円

改修を終えた神岡小学校プールを令和8年度から一般開放し、市民が身近に利用できる学校開放施設として活用します。

拡充 神岡恐竜溪谷 プロジェクトの推進

〇万円

神岡町での化石発見を契機に、フォーラム等を開催することで、恐竜を核とした地域資源の魅力発信と市民の機運醸成を進めます。

拡充 誰もが気軽に「探究」活動 市民カレッジでサポート

〇万円

子どもから大人まで市民の「やってみたい」を実現するため、市民カレッジに新たに地域交流の場「がやがや会(仮)」を設ける等、市民の探究活動をサポートします。

新規★ 市民参加による 神岡図書館10周年記念事業

〇万円

市民が主役となる参加型イベントを通じて、神岡図書館の移転開館10周年を祝い、図書館の魅力を発信します。

拡充 教職員の働きがいのある職場づくり

〇万円

教職員の業務負担軽減と働きやすさ向上のため、スクール・サポート・スタッフを中心とした支援人材を配置し、教育活動に専念できる環境を整えます。

誇り

資源と環境を未来に繋ぐ仕組みをつくる

脱炭素化の推進を図るため、再エネ活用や省エネ・リサイクルの促進、自然資源の保全に取り組みます。



拡充 「紙」をテーマとした 市民参加型ごみ減量運動

〇万円

市内中学生が参加する環境美化活動を発展させ、紙ごみの分別やリサイクルの現場視察、市民に伝える啓発活動を通じて、ごみの減量に向けた仕組みづくりを進めます。

拡充 市有施設照明のLED化

〇万円

施設の優先順位と財源を考慮し、市有施設のLED化を推進します



拡充 J-クレジットを活用した 自然資源の保全活用とまちづくり

〇万円

J-クレジットの申請を進め、認可後に販売を開始し、得られた収益を自然資源の保全・活用と地域づくりに再投資します。

拡充 補助対象拡大による 家庭の省エネ・脱炭素化推進

〇万円

太陽光発電設備設置補助金では蓄電池単体設置を新たに対象とし、電気自動車購入助成金ではPHEVを加えることで、家庭の省エネ・脱炭素化を進めます。

新規 公共施設への太陽光発電導入 に向けた導入可能性調査の実施

太陽光発電設備の導入が見込まれる公共施設について、〇万円
構造条件や設置方法等を含めた詳細な導入可能性調査を実施します。

実証 生ごみ減量に向けた手法検証

〇万円

段ボールコンポなどの生ごみの減量手法について、市内学校などで実証し生ごみ対策の効果的な方法を検証します。

拡充 事業者GX(省エネ)設備更新への支援

市内事業所の効果的な省エネ・脱炭素化を進めるため、省エネ診断に基づく設備更新を条件とするとともに、雇用条件を撤廃し家族経営等も対象にするなど支援を拡充します。

実証 官民連携による 資源回収手法の検討

〇万円

市有地を利用した民間資源回収ボックスを複数設置し、回収量と効果を検証し、資源回収の手法を検討します。

市役所づくり

持続可能な飛騨市役所をつくる

持続可能な市役所の実現を目指し、人材確保対策、業務の見直しやを推進します。



新規★

公共施設在り方検討委員会(仮)の設置

公共施設管理の「選択と集中」の方針に基づき、今後の施設の方向性を決定するため、検討委員会を設置します。 ○万円

新規★

口座振替受付手続きの簡素化システム導入

口座振替の新規登録手続きを簡素化するためのペイジーシステムを導入し、行政手続き上の負担軽減を図ります。 ○万円

拡充▶

委員報酬・費用弁償の引き上げ

各種委員報酬を日額6,000円を12,000円に引き上げるとともに、費用弁償を市独自基準の40円/kmに見直します ○万円

拡充▶

公共施設予約管理システムの更新

施設予約管理システムを令和9年4月供用開始に向けて更新し、スポーツ施設をはじめ、コミュニティ施設にも対応することで、より効率的な施設運営を目指します。 ○万円

拡充▶

書かない窓口システムによる税証明発行手続きの簡素化

書かない窓口システムに税証明発行手続きを追加実装し、市民の利便性向上を図ります。 ○万円



働ける時間や役割を提案できる職員採用等の実証

応募者が「働ける時間帯や担える業務」を提案し、市が業務内容や配置を組み立てる新しい職員採用を会計年度職員採用等を対象に実証的に行います。 ○万円

拡充▶

議場のバリアフリー化とLED照明整備

議会傍聴の車いす対応と照明のLED化を進め、より開かれた議会に向けた環境を整備します。 ○万円

拡充▶

市民病院におけるマイナンバーカード・診察券の一体化

マイナンバーカードを診察券としても活用できるようにし、診察時の利便性向上を図ります。 ○万円

令和8年度当初予算（案）

令和7年12月

飛騨市役所 企画部 総合政策課

☎ 0577-73-6558 (ダイヤル)

✉ sougouseisaku@city.hida.lg.jp



HIDA CITY

飛騨市

●飛騨市交付額：約347,000千円 (うち、食料品特別加算分 約8千5百万円) 参考R6：94,000千円
 ●基本方針： 「幅広い市民の暮らしを早く確実に支える支援」 と 「物価高騰の長期化を見据えた基盤強化の支援」
 特に、価格転嫁ができない業種や、低所得者、年金生活者等への支援を重点的に事業組み立て

12/22時点

No	分類	区分	事業名	対象	概要	定点ヒアリングにおける市民等の声(抜粋)
1	生活者支援 (食料品)	新規	電子地域通貨を活用した「飛騨市まるごと大売出し」の実施	全市民 市内事業者	さるぼぼコインを活用し、一定期間内に市内店舗で買い上げ金額に対し一定率でポイント還元	「価格の高騰により買い控えが進んでいる。購入点数が少なくなっている」(スーパー) 「消費が落ちている。材料費の仕入れ値が上がっており、売上の入金までに時間がかかり資金繰りが厳しい」(菓子製造・販売) 「毎日の買い物で実感するのは食料品の高さ」「買い物に行っても、食べたい食材の値段が高騰していると買い控えしてしまう」(子育て世帯、年金世帯等)
2		新規	移動販売(福祉スーパー)大売出し	全市民 市内事業者	「福祉スーパー」の位置づけとして実施	
3		新規	学校給食費の食材高騰に対する公費支援	保護者	食材費高騰分の公費支援 小学校分の学校給食無償化を考慮し検討	「米価格が前年比150%増。食材高騰の影響が大きい」 「R6に実施した支援でなんとかやりくりできている」 (学校給食関係)
4	生活者支援 (その他)	新規	水道料金の基本料金の減免	全市民	全世帯の一定期間水道基本料金の減免	「物価高騰が続いており、先行きが見えない」
5		新規	ごみ袋の無料交付	全市民	全世帯の市民を対象に「ごみ袋引換券」を交付し、取り扱い店舗で無料配布	「どの分野も値上がりしており、節約のしようがない」(共通)
6		拡充	省エネ家電購入補助金	全市民	省エネ性能の高いエアコン、冷蔵庫、LED照明への買い替え支援	「光熱費が高騰しており支出が高んでいる」 「LEDへの移行対応も控えているが、費用負担が重い」
7		拡充	「いきいき券」の追加交付	高齢者等	70歳以上の高齢者等(在宅介護世帯含)に対する外出・生活サービスに幅広く利用できる券の追加交付	「年金生活で、物価が上がっているため生活が厳しい」 「電気代、ガス代、食費すべて上がっており、節約しても追いつかない。いきいき券の追加があるとありがたい」(年金生活者)
8	拡充	子育て世帯応援補助金の追加交付	子育て世帯	子育て世帯を対象とした応援ポイント等の交付	「子の成長に伴い食費が増えているが、物価高で家計が苦しい」 「給食費以外も家庭の食費や日用品の負担が大きくなっている」 「光熱費や食費が同時に上がり、教育費との両立が厳しい」	
9	事業者支援	新規	医療介護福祉サービス事業所等における支援	市内事業者	国県補助でも不足している費用について、市独自支援	「光熱費や食材費の高騰が施設運営を圧迫している」 「利用者負担を増やさずに運営を続けるのが難しい」 「人件費・物価の上昇により、経営の先行きが不安」
10		新規	畜産農家の安定的な経営に対する支援	市内事業者	畜産農家への飼料高騰支援	「飼料価格の高騰が続いており、経営が非常に厳しい」 「電気代・燃料費の上昇が畜舎管理や生産コストに直結」 「価格転嫁が難しく、赤字覚悟で経営を続けている」
11		新規	販路拡大促進事業支援	市内事業者	(国内販路拡大枠)(海外グローバル枠) 市外販路拡大に係る営業費用、商品開発、設備投資費用を対象とした支援	「価格転嫁をすると売上が落ちるため、踏み切れない」 「最低賃金の上昇に対応するのが厳しい」
12		新規	設備投資促進支援	市内事業者	業務効率化、売上向上に資する製造機械装置、器具備品等	「人件費を上げたいが、原資がない」
13		新規	酒米高騰に対する支援	市内事業者	近隣市と足並みをそろえて支援の方向で検討中	(飛騨酒造組合、名古屋国税局より要望) 酒米高騰により経営を圧迫 米価格により、生産者の酒米からの撤退も懸念

岐阜県内のツキノワグマ個体数統計（推定）より

- 個体数統計（推定）の最新である2022年の生息頭数は、調査開始時期の2006年に比べて約2.4倍、10年前の2012年に比べて約1.7倍、個体数が増加している。
- 飛騨市は、食料資源となる堅果類（ブナ・ミズナラ・コナラ）を含む広葉樹林が民有林の約7割と他自治体と比べて多く、広葉樹林の多くは林齢が65～85年生と成長により食料資源が豊富となり、繁殖しやすい環境になっている。

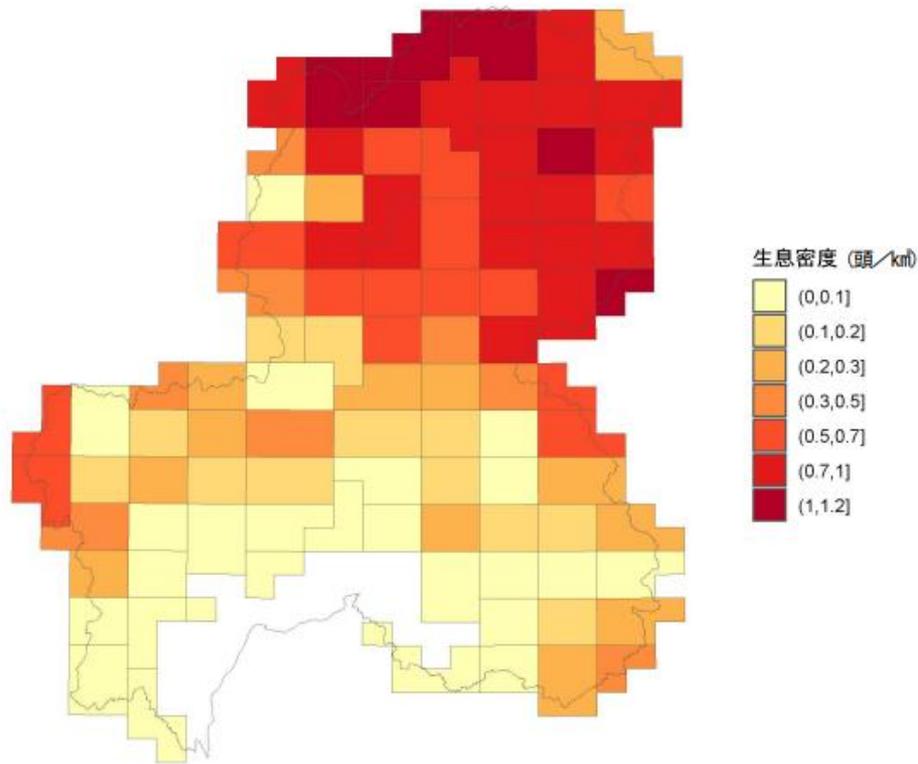


図12 地域別生息密度 (2022 (令和4) 年度 平均)

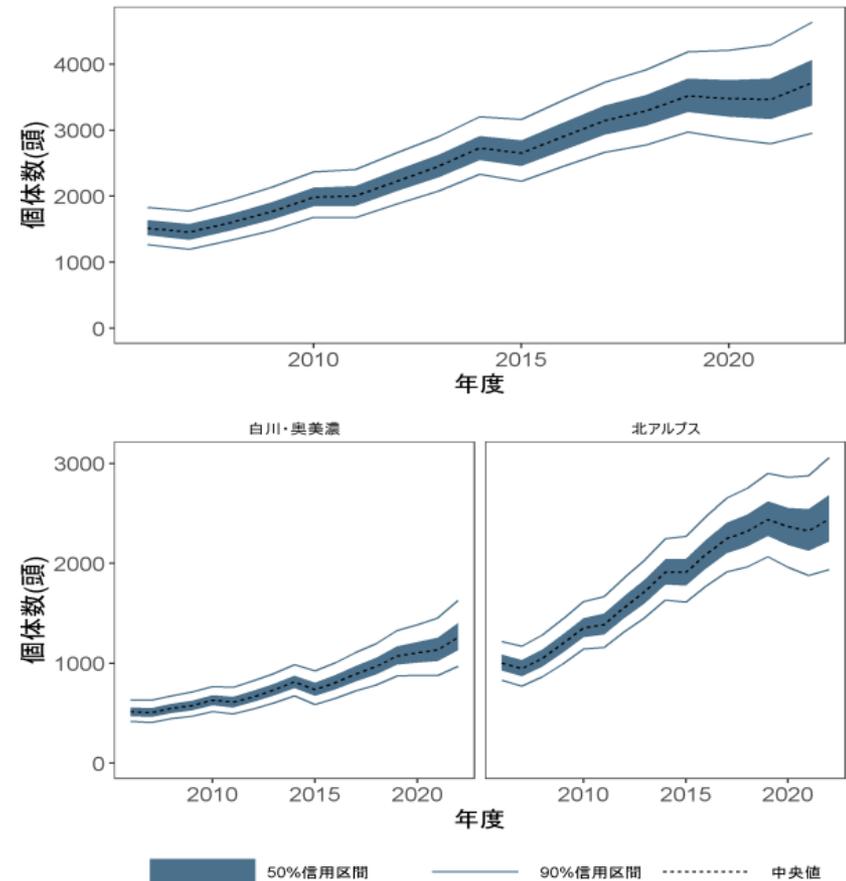
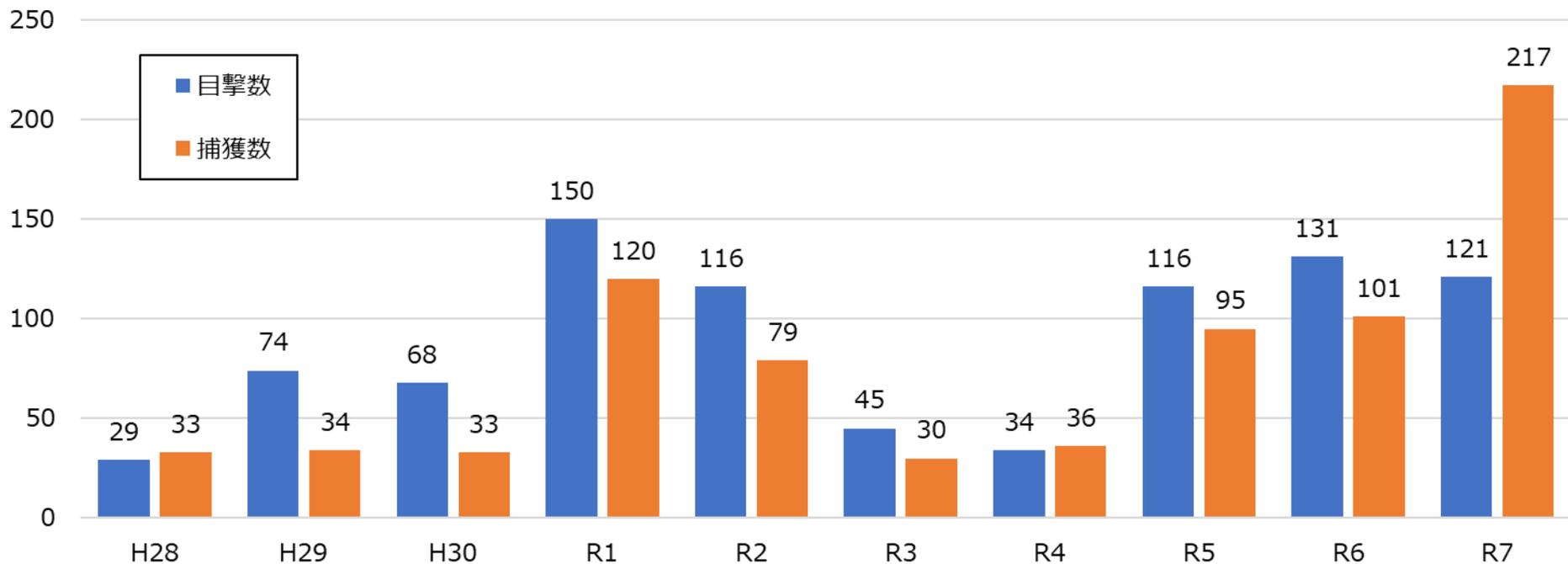


図8 全域(上)及び個体群別(下)の個体数の推移

飛騨市ツキノワグマの目撃数と捕獲数の推移

取扱注意

飛騨市ツキノワグマの目撃数と捕獲数の推移



内容	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
目撃数	29	74	68	150	116	45	34	116	131	121
捕獲数	33	34	33	120	79	30	36	95	101	217

※令和7年度は12月15日現在

豊凶状況	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
ブナ	並作下	不作	並作下	凶作	凶作	不作	並作下	凶作	不作	凶作
ミズナラ	不作	不作	不作	不作	不作	不作	並作下	不作	並作下	不作
コナラ	不作	凶作	不作	並作下	不作	並作下	不作	不作	不作	不作

※中部森林管理局 堅果類（ブナ・ミズナラ・コナラ）の豊凶調査結果について（飛騨地域）、R6は県東部・西部の2地区調査のため、東部データを採用

飛騨市におけるツキノワグマ対策の現状

【基本的な市のツキノワグマ対策】

- クマの個体数増加の状況を踏まえ、適正な個体数管理に向けた捕獲の強化。
- 個体数増加による食料資源不足と林縁部における誘因果樹の適正管理により生活圏への出没対策

1. クマの個体数管理対応

- 猟友会と痕跡や周辺の誘因物等の情報を共有し、罠による出没個体の捕獲強化
- 捕獲報償金増額による捕獲の推進
R7 2,000円/頭を増額 32,000円/頭

2. 生活圏への出没対策（誘因果樹等）

- 放任果樹（柿など）等の伐採費用の補助（補助率1/2以内、上限5万円）
- 柿マップを活用した通学路沿いの柿の所有者への早期収穫推奨や緊急措置としての市職員による柿の実除去・伐採対応
- 県によるドローンを活用した追い払い実施
- 林縁部の緩衝帯整備のため、「市林縁部の整備に関するガイドライン」を策定し、緩衝帯となる林縁部の見通しを良くするために下草刈りや除伐、間伐、伐採木の搬出支援。（補助率10/10、上限300万円）

3. 市民の安全確保対策

- ほっと知るメール、市公式LINE、同報無線による速やかな出没情報の注意喚起
- クマ被害への対策を考える研修会の実施
- 新聞折込によるクマ注意情報の周知
- 飛騨市ツキノワグマ出没注意報（アラート）の運用
- 出没時や通学時間帯におけるパトロール
- 緊急銃猟制度運用における出没時の対応

4. 市及び関係機関との連携強化

- 庁内情報連絡ツール「Logochat」用いた速やかな情報共有体制の構築（農林部・教育委員会事務局・各振興事務所等）
- 「飛騨市ツキノワグマ対策協議会」を実施し、飛騨警察署や猟友会、市関係部署とのクマ出没情報と対策の情報共有を行い、連携体制を確認

飛騨市におけるツキノワグマ対策の来年度以降の取組

○これまで行ってきた個体数管理と生活圏への出没対策（誘因果樹等）、市民の安全確保対策を基本に更なる対策強化を図る。

1. クマの個体数管理対応

- 出没個体の捕獲対応
- 捕獲に関わる若手狩猟者の銃猟及び捕獲技術の向上（訓練費用の支援、捕獲研修の実施）
- 県政策オリンピックによるニホンザル捕獲の取組をクマへ応用したICT活用の取組
- ガバメントハンターとしての運用や人材雇用の研究

2. 生活圏への出没対策（誘因果樹等）

- 放任果樹（柿など）等の伐採費用の補助増額による更なる適正管理の推進
- 学校周辺と通学路沿いを中心に見通しが悪い農地、空き地の適正管理
- 林縁部にある緩衝帯の見通しを良くすることで鳥獣が立ち入りにくくすることを目的とした下草刈りや除伐、間伐、伐採木の搬出支援。（補助率10/10、上限300万円）
- 「飛騨市多種共存の森づくり」の推進
飛騨市森づくり構想による針広混交林化への誘導

3. 市民の安全確保対策

- ほっと知るメール、市公式LINE、同報無線による速やかな出没情報の注意喚起
- クマの生態を知り、被害対策を考える研修会の実施
- 飛騨市ツキノワグマ出没注意報（アラート）の運用
- 緊急銃猟制度運用における出没時の対応

4. 市及び関係機関との連携強化

- 庁内情報連絡ツール「Logochat」を用いた速やかな情報共有体制の構築（農林部・教育委員会事務局・各振興事務所等）
- 出没増加時には必要に応じて、関係機関（飛騨警察署・猟友会等）との情報共有を実施。

番号	委員	意見	担当課	メモ
1	B委員	<p>①飛騨市の地籍調査の進捗状況について</p>	林業振興課	
		<p>地籍調査については、飛騨市も力を入れていただいております。 河合町の角川地区においては、地籍調査を平成23年から実施しており、5地区中4地区までは登記を完了している状況である。残りの第5地区については平成29年に着手し9年経過しているが、まだ完了していない状況。国からの予算も大変厳しいかと思うが、早期に進めていただきたく思い、今後の地籍調査の予算見込みについてお伺いしたい。</p>		
		<p>②行政区および組の統廃合について</p>	総務課	
		<p>近年、河合町も人口が著しく減少している。 行政区においても、戸数減少のため何役も区の役を兼ねている方が多くを占めている。そのためか、特に若い世代から組や行政区の統合は可能かと質問をいただいている。 統合の手続きについて簡単に説明いただくとありがたい。</p>		

番号	委員	意見	担当課	メモ
6	F委員	<p>①熊対策について</p>	林業振興課	
		<p>1. 状況・背景 今後、2.3年に1回くらいのペースで今年のように熊の出没が頻発してくるとも言われています。加えて飛騨市内では、田舎地域の人口減少、猟友会の高齢化もあり、状況は悪くなる一方で、市だけの対策には限界があると思います。</p> <p>2. 市への要望・対応案など 県や国へ対して積極的に熊対策への働きかけをお願いしたいです。</p>		
		<p>②猪谷～神岡間のバスについて</p>	総務課	
<p>1. 状況・背景 今年度から猪谷～神岡のバスの土日の運転がなくなりました。</p> <p>2. 市への要望・対応案など 平日の利用状況はどうなのでしょう？ もし平日も利用者が少ないようなら、土日少し（隔週など）運行できませんか？ 中高生の子供たちが、友達だけで映画を見たり買い物したりするのに、少なからず猪谷までのバスを使っていたのですが、土日のバスがなくなり、猪谷まで送り迎えをしています。自分たちだけでバスや電車の時間を調べて遊びに行くのも良い経験だと思うので、月に数日でもあったらありがたいです。</p>				
<p>③CoIUと町づくりについて</p>	総合政策課／ まちづくり 観光課			
<p>1. 状況・背景 市内にも町づくり団体がたくさんありますが、多くの団体で新しい若い子が加入せず、年々高齢化が進んでいます。</p> <p>2. 市への要望・対応案など 私たちの団体でも、マンネリ化もあり、せっかく大学ができるなら学生からの斬新なアイデアをもらいたいです。そういったことを含めて色々と交流ができればありがたいです。</p>				

番号	委員	意見	担当課	メモ
		<p>①ネット環境について</p> <p>1. 状況・背景 従業員からの話で、太江、杉崎地区のネット環境の回線（NTT）が弱い。 特に帰宅後、20：00以降は頻繁に繋がらない事象が発生している。</p> <p>2. 市への要望・対応案など ネット環境の強化について、企業へ働きかけをしてほしい。</p>	総務課	
8	H委員	<p>②交差点ミラーについて</p> <p>1. 状況・背景 是重 セブンイレブン前交差点（横断歩道あり） セブンイレブン看板の下にミラーが設置しているが 荒城川方面からの出るとき、左右が大変見えにくい。</p> <p>2. 市への要望・対応案など ミラーの大きさなど変更など調整をお願いいたします。 その他いろいろな箇所の点検、調整をお願いいたします。</p>	建設課	
		<p>③猛暑対策について</p> <p>1. 状況・背景 小中学校の帰宅時間は、気温が高い時間帯と重なるため 徒歩通学を懸念する保護者の声も多い。</p> <p>2. 市への要望・対応案など 自転車通学の範囲拡大、バス通学運用の見直し、日傘の活用推進など 子供たちの命を守る取り組みをご検討ください。</p>	学校教育課	

番号	委員	意見	担当課	メモ
11	K委員	<p>①教員の働き方改革の推進について</p> <p>1. 状況・背景 各取組によって超過勤務など軽減されているようです。地域クラブ移行化によっても、さらなる負担軽減が見込まれます。そういう中で、総合的な学習・探究は充実してきています。課題解決を目指して学びを深めるこの学習は大変意味深いと捉え、地学協本部としても支援をしているところです。ただ、特に中学校では、探究学習が進めば、個に応じて対応がかなり複雑になります。様々な方々へのコンタクトや調整、成果を伝える発表の機会なども増え、教師の負担は大きくなりつつあるのではないのでしょうか。</p> <p>2. 市への要望・対応案など 探究の学習はよい方向であるからこそ、教員の働き方についてあり方を検討いただきたいです。</p>	学校教育課	
		<p>②学校支援員の拡充と研修について</p> <p>1. 状況・背景 学校作業療法士が学校に入り、個に応じた対応について支援や指導をされて、学級担任等はかなり見通しを持てるようになって良好な方向と思います。しかし、インクルーシブ教育も求められる中、発達に問題を抱える子やグレーゾーンの子も増え、支援ニーズが多様化・複雑化してきていると言えます。特に、社会性の未発達な低・中学年において個別の支援が一層必要ではないのでしょうか。</p> <p>2. 市への要望・対応案など 学校支援員の配置をさらに充足する方向を検討いただけたらと考えます。また、特別支援や合理的配慮の理解、教師のサポートや情報交流のあり方など、支援員の研修をさらに充実していただくことを願います。</p>	学校教育課	

令和7年度のスケジュール

資料④

政策協議

7-10月

予算編成

10-11月

7月

10月

11月

第1回飛騨市総合政策審議会
令和7年7月14日(月)

第2回飛騨市総合政策審議会
令和7年10月17日(金)

予算査定

12-1月

議会審議

2-3月

1月

第3回飛騨市総合政策審議会
令和7年12月22日(月)

第4回飛騨市総合政策審議会
令和8年3月23日(月) 予定